

# 地方都市における高齢者と障がい者の就労を支える 多職種連携ネットワーク 「高齢者と障がい者の就労を支える会」の構築

北上 守俊 ●新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助教



## 要旨

少子高齢化の影響により、今後益々労働人口が減少していく中で、働きたいと願う高齢者や障がい者の就労を促進することは、労働力人口減少の問題を解決していく上で重要な課題である。

今回、障がい者の中でも症状が多様で、見た目では分かりにくい脳卒中や若年性認知症に起因する高次脳機能障害者の就労に着目し活動を行った。高次脳機能障害の啓発や多職種連携の強化を目的に「新潟高次脳機能障害者の就労を支える会(以下、当会)」を立ち上げ、①障害福祉サービス事業所の見学会開催、②ホームページ作成、③啓発動画の作製の3点の活動を行った。

その結果、見学会には9名が参加し、約90%の参加者が高次脳機能障害の支援の理解が深まったと回答した。作成したホームページには、9件の記事を投稿し、900件のアクセス(2020年4月13日時点)があった。啓発動画は、4分16秒の動画を作製し、当会のホームページとYouTubeに公開した。

今後の課題としては、高次脳機能障害だけでなく、高齢者の就労の実態を明らかにし、地域の中でサポート体制を構築していく必要がある。

## 1. 背景と目的

### 1) 背景

少子高齢化の影響により今後、ますます労働人口が減少していく。その中で、働きたいと願う高齢者や障がい者の就労を促進し、1人でも多くの方が働ける環境を整えていくことは国内の労働力人口減少の問題を解決していく上で重要な課題である。また、地方都市では、大都市地域に比し就労を支える施設が少ないため、高齢者や障がい者の就労に関して、一般市民や支援者に情報発信をしていくことが重要である。

### 2) 目的

今回、障がい者の中でも症状が多様で、見た目では分かりにくい脳卒中や若年性認知症に起因する高次脳機能障害者の就労に着目し活動を行った。高次脳機能障害とは、注意力や記憶力などの認知機能の低下がみられる障がいである。高齢者における認知機能の低下の課題と共通する部分があるため、高次脳機能障害に着目した。

高次脳機能障害の啓発や多職種連携の強化を目的に「新潟高次脳機能障害者の就労を支える会(以下、当会)」を立ち上げ、活動を行った。

## 2. 活動の方法

### 1) 障害福祉サービス事業所の見学会開催

#### ①開催目的

高次脳機能障害の症状は多様であり、専門職であっても支援の在り方に悩むことが少なくない。そこで、高次脳機能障害者の支援をされている障害福祉サービス事業所から支援のヒントを学び、高次脳機能障害者の支援に活かしていただくことと支援の輪の拡大を目的に、見学会を企画した。

#### ②見学内容

- 施設の概要(利用者の障がい特性、定員など)

- 施設でのプログラムや作業内容
- 支援で工夫している点など

### ③開催時期

2019年9月18日(水) 13時～16時30分

### ④見学先

- 新潟県障害者リハビリテーションセンター(新潟市江南区)
- 就労継続支援B型 スワン(新潟市江南区)

## 2) 当会のホームページ作成

### ①作成目的

一般市民に対する高次脳機能障害の啓発と支援者の知識・技術の向上を目的にホームページを作成した。

### ②ホームページの内容

新潟県内の高次脳機能障害に関する活動などの取組みや支援機関の情報のほか、家族会への橋渡しとしても活用できるようにした。

## 3) 高次脳機能障害の啓発動画の作製

### ①目的

一般市民と支援者向けに、高次脳機能障害の理解を深めていただくため動画を作製した。

### ②内容

高次脳機能障害の説明のほか、新潟県内で高次脳機能障害の支援の豊富な障害福祉サービス事業所2施設に協力をいただき動画を作製した。

### ③協力施設

- 新潟県障害者リハビリテーションセンター(新潟市江南区)
- 就労継続支援B型 スワン(新潟市江南区)

## 3. 現状の成果・考察

### 1) 障害福祉サービス事業所の見学会開催

#### ①参加者の所属

本見学会への参加者は9名であった。所属は、障害福祉サービス事業所4名、医療機関、就労支援機関、行政がそれぞれ1名、その他が2名であった。

#### ②本見学会のアンケート結果

本見学会の満足度は「満足している：5名(55.6%)」「どちらかと言えば満足している：3名(33.3%)」「どちらとも言えない：1名(11.1%)」

で、約90%が満足している結果となった。

高次脳機能障害者の支援の理解が深まったかの質問は「深まった：4名(44.4%)」「どちらかと言えば深まった：4名(44.4%)」「どちらとも言えない：1名(11.1%)」で、約90%が理解が深まった結果となった。

そのほかに、今回本見学会に参加した動機として、「若年の高次脳機能障害者の支援先に悩む事例があるため」や「高次脳機能障害の理解が薄いため」などが理由として挙げられた。

### 2) 当会のホームページ作成

一般市民および支援者向けの高次脳機能障害に関する研修会やセミナーの案内、取り組みの報告など、9件の記事を投稿した。また、高次脳機能障害者の会のリーフレットや家族会が運営する就労継続支援B型で販売している商品をホームページからネット注文できるようにした。アクセス数は、2020年4月13日時点で900件であった。

### 3) 高次脳機能障害の啓発動画の作製

4分16秒の動画作製を行い、当会のホームページとYouTubeに4月6日付で一般公開(59回視聴：2020年4月13日時点)した。

## 4. 今後の展望

今回、高次脳機能障害を主に活動を行ったが、今後労働力の担い手として期待されている高齢者の就労する実態や一般市民向けの啓発活動を行っていく必要がある。

また、今回作製したホームページや動画が、1人でも多くの方々に高次脳機能障害の理解を深めるきっかけになればと思う。



「新潟高次脳機能障害者の就労を支える会」ホームページトップ画面



啓発動画「高次脳機能障害とは？-新潟県内の障害福祉サービス事業所-」